

< 平成 24 年度管理運営の基本的な考え方と重点施策 >

財団法人宗像市総合公園管理公社
平成 24 年度事業計画

平成 24 年 3 月

財団法人宗像市総合公園管理公社

< 目 次 >

1. はじめに	1
2. 平成 24 年度管理運営の基本方針及び重点施策について	
(1) 基本方針	2
(2) 重点施策	
① 文化事業	3～6
② 本館運営（営業・貸館事業）	7～8
③ プラネタリウム運営	9～10
④ アクアドーム運営、健康レクリエーション事業	11～13
(3) 運営全般	
① 施設管理・安全管理	14
② 組織・運営体制	15
③ 財政運営	16

1. はじめに

平成 24 年度は、第二期指定管理の折り返しの年となる。前半の二年間の足取りはおおむね順調であった。公社スタッフの堅実な業務遂行と市民・利用者みなさんのご指導・ご協力があったのである。この実績を踏まえながら、ここからさらなる高みへとステップアップしていきたい。

その第一は公益法人制度改革への取り組みである。今年度はその仕上げと、新しい公益法人としての“離陸準備”を果たす年になる。「宗像市民および広域的な利用者のために、文化・芸術活動、スポーツ・健康づくり、生涯学習、まちづくりの拠点としての役割を担う」という宗像ユリックスのミッションを、改めて内外に宣言する年といってもいいだろう。そのために、公益法人としての組織・機構や財務的な力量アップ、職員の意識改革と陣容の強化など、多くの課題に取り組まなければならない。そのことは同時に、宗像ユリックスのありようを問い直すという“内なる改革”に挑戦するチャンスでもある。

第二は、市の文化・芸術振興施策との協働である。「宗像市文化芸術のまちづくり 10 年ビジョン」は二年目に入る。初年度は、市内の小学校 4 年生全員に本物のコンサートを体験させる「芸術鑑賞モデル事業」が、初の試みとして実現した。また、いきいき出前コンサートや日曜百円寄席の地島公演、市民ギャラリーの活性化などにも取り組み、鑑賞機会の創出と市民文化のすそ野の広がり到手ごたえを感じる一年でもあった。

こうした「どこでも、だれでもユリックス」路線をさらに押し進めることに力を注ぎたい。そのときに肝要なのが、宗像市との協働である。「市民との協働による文化・芸術の振興」を掲げる市の施策は、その展開の拠点としてユリックスを想定したものになっている。市民と行政をつなぎ、市民と市民をつなぐ場としてのユリックスの存在感をさらに高めていくことが求められている。

こうした取り組みの中で、25 年度はいよいよ宗像ユリックス開館 25 周年、併せて第二期指定管理最終の年となる。公益法人制度改革も宗像市文化行政との協働も、いずれも次の第三期指定管理者となることを展望しながらの取り組みであることはいままでもない。その方向性への地歩をしっかりと踏み固めながら、着実に、かつ挑戦的に事業展開を図っていくこととする。

2. 平成 24 年度管理運営の基本方針及び重点施策について

(1) 基本方針

平成 24 年度は、第二期指定管理期間の 3 年目であり、今後もこれまでの運営を踏まえながら、市民・利用者を主人公とした施設運営や芸術文化と市民文化を捉えた総合的な宗像文化の振興を図る。このことは、平成 22 年度に策定された「宗像市文化芸術のまちづくり 10 年ビジョン」の骨子をなすものである。

また、経営的志向に基づく効率的な管理運営を目指し、公社全職員と関係団体が一丸となって積極的に取り組む。

①宗像市文化行政施策との連携・協力

これまでの芸術文化に関するノウハウ・スキルを活かし、市の文化行政施策への積極的な連携・協力を行う。市民ギャラリーの管理運営を通して、市所有絵画の企画展示や市民芸術家への支援を行う。また、これまで市が主催してきた文化事業の運營業務を共催で行う。

②各コミュニティ運営協議会、各種団体、教育機関との連携など参画・協働の積極的な取り組み

市内各種文化団体や各種教育機関と協働で事業を行うことで、文化芸術活動の普及と振興を目指す。また、新たな客層の掘り起こしを行い将来の客層及び文化活動の賛同者の獲得を図る。

③参加・育成型事業への重点シフト

これまでの参加・育成型事業を充実させ市民文化の振興と文化行政への寄与を行う。また、九州管楽合奏団によるクリニックやアウトリーチを充実させ、芸術文化と市民文化を捉えた「宗像文化」の振興を目指す。

④積極的な営業展開による顧客満足度の向上

利用者ニーズに沿ったマーケティング戦略や様々な顧客サービスの導入を図り顧客満足度を向上させ、利用者増加と収支改善に努める。

公益法人改革については、平成 24 年度中に申請手続きを終えて新年度から新しい公益法人としてのスタートを目指す。

(2) 重点施策

①文化事業

第一期指定管理期間より「参加型・育成（普及）型事業重視」の方向で事業展開を行った結果、多様な取り組みができるようになってきている。特に平成 23 年度は、従来のアウトリーチを根本から見直し、質と量ともに上回る「いきいき出前コンサート」をスタートさせた。九州交響楽団メンバーによる弦楽四重奏を 4 ヶ所、九州管楽合奏団の金管メンバーで 14 ヶ所、合計 18 ヶ所で実施した。24 年度も改善を加えながら、多くのお客様へ「生の演奏」をお届けしていく。

鑑賞型事業においては、様々な工夫を加えながら事業を展開していく。(財)地域創造より 3 年間の助成を受けている「九州交響楽団宗像公演 ～音学会と音楽会～」では、事前に「音学講座」やアウトリーチを配置するなど普及的な側面を持たせる。

また、平成 25 年度は開館 25 周年にあたる。お客様に開館 25 周年を早期に印象付ける為に、1 月から開館 25 周年事業をスタートさせる。これを、25 年度に実施する周年記念事業を成功に導くきっかけとしたい。

上記に加え、平成 24 年度は、「文化芸術のまちづくり 10 年ビジョン」の短期プロジェクト（25 年度完成目標）の実現に向けた取り組みを重点的に行っていく。

●参加型・育成（普及）型事業の継続と企画内容の充実

「いきいき出前コンサート」は、九州交響楽団メンバーによる弦楽五重奏で 4 ヶ所、「九州交響楽団宗像公演（6 月 24 日）」でソリストを務める白石光隆さんと宗像市在住の持松朋世さんによるピアノと声楽によるアウトリーチを 3 ヶ所、九州管楽合奏団メンバーによる幼稚園・保育所へのアウトリーチを 6 ヶ所、合計 13 ヶ所を計画している。なお、ピアノと声楽のアウトリーチは小学校 2 校の音楽の授業として実験的に実施する。

また、九州管楽合奏団の学校公演・クリニックは従来通り継続的に実施する。

●鑑賞型事業の工夫のある展開

昨年に続き、6 月にハーモニーホールにおいて「九州交響楽団 宗像公演」を実施する。この事業の狙いは、様々な音楽メディアが溢れる現代において、コンサートホールに足を運び「音楽を生で聴く楽しみ、感じるこころ」を伝える事である。コンサート前に「音学会」と称する講座を 2 回開催し、期待

感を高めた上でオーケストラの生の演奏に臨むという企画である。単なる鑑賞型事業に終わらせず、クラシック音楽の普及という目的も併せ持つ。

鑑賞機会の少ない文楽の公演も実施する。江戸時代から伝承され、熊本県で唯一残る人形浄瑠璃「清和文楽人形芝居」を5月12日に開催するにあたり、事前に「清和文楽ワークショップ ～らく楽文楽～」を実施する。

●「宗像市文化芸術のまちづくり 10 年ビジョン」の取り組み

「宗像市文化芸術のまちづくり 10 年ビジョン」の中で、短期プロジェクト（25 年度完成）の着実な進展を図る。

①文化芸術活動と鑑賞機会の確保（実施場所：コミュニティ）

・・・24 年度より取り組み開始

②宗像ユリックスでの鑑賞機会の創出（対象：市内小学校 4 年生）

・・・23 年度より取り組み開始

③コーディネーターの養成 ・・・24 年度準備、25 年度完成

中期プロジェクト（27 年度完成）についても、実施に向けた環境整備を行っていく。

④アマチュア文化芸術出前隊 ⑤若手芸術家派遣制度

⑥ネットワーク形成の促進

●文化団体との連携強化

「むなかた芸術祭」、「むなかた吹奏楽祭」、「むなかた文化祭」、「むなかた子ども芸術祭」の 4 事業実施にあたっては、文化団体との連携を深め、実施目的に沿った事業内容で展開していく。

交流事業として、「玄界灘ジョイントコンサート」を開催する。宗像市、福津市、岡垣町、水巻町の少年少女合唱団の発表の場、交流の場として開催する。

●営業力強化による事業収支の改善

参加型・育成型事業への取り組み強化を行っていく中で、鑑賞型事業の収支改善が必要となってくる。

① 収支を強く意識するマインドの醸成

チケット販売計画の早期立案と進捗管理

② P. D. C. A. サイクルでの事業管理

③ 助成金制度の有効活用

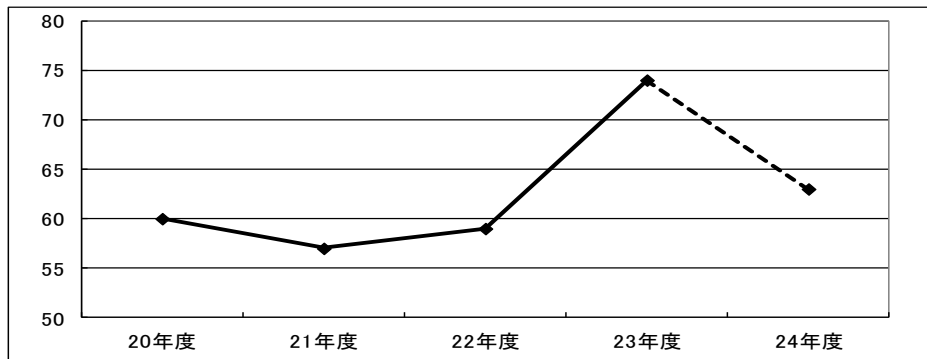
【 数値目標 】 ●事業本数 【63 本】

平成 24 年度は、共催事業を含め年間 63 本とする。

事業本数（ジャンル別）

※23 年度は見込値、24 年度は目標値

事業ジャンル	20 年度	21 年度	22 年度	23 年度	24 年度
音楽(クラシック)	7	8	9	10	9
音楽(クラシック以外)	8	4	5	9	5
映画	15	18	13	16	12
演劇・古典芸能	9	13	9	9	9
美術	3	3	4	3	2
アウトリーチ	3	6	6	18	13
その他	15	5	13	9	13
合計	60	57	59	74	63



【 数値目標 】 ●入場者数 【47,000 人】

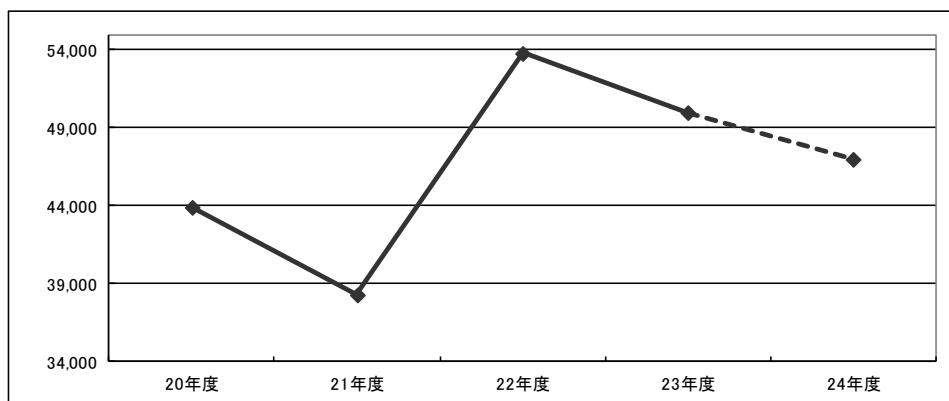
入場者数は、事業本数 63 本実施を前提条件として、47,000 人を目標とする。事業毎の目標を明確にし、達成に向けた施策の立案・実施を行う。

文化事業・入場者数の推移

※23 年度は見込値、24 年度は目標値

	20 年度	21 年度	22 年度	23 年度	24 年度
入場者数	43,917	38,295	53,798	50,000	47,000
対前年比	106.9%	87.2%	140.5%	92.9%	95.6%
対前年人数	2,847	△ 5,622	15,503	△ 3,798	△ 3,000

※22 年度より、「むなかた芸術祭」など 4 事業が加わったため、入場者数が増加。



【 数値目標 】 ●ユリックス倶楽部会員数 【3,500 人】

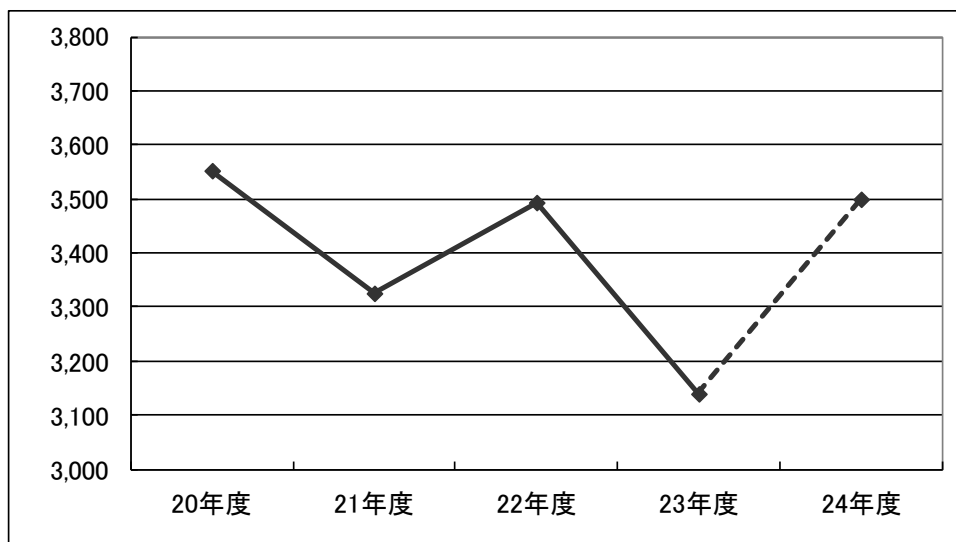
会員数目標を 3,500 人とし、以下の対策に取り組む。

- ① インフォメーション、電話でのチケット購入時の勧誘の徹底
- ② 館内告知の強化
- ③ 勧誘チラシの新聞折込（宗像市・福津市・宮若市）
- ④ 前年会員で非継続会員へのダイレクトメール（宗像市・福津市・宮若市）

「ユリックス倶楽部」会員数の推移

※24 年度は目標値

	20年度	21年度	22年度	23年度	24年度
会員数	3,553	3,327	3,494	3,140	3,500
対前年比	100.9%	93.6%	105.0%	89.9%	111.5%
対前年人数	32	△ 226	167	△ 354	360



② 本館運営（営業・貸館事業）

宗像市中央公民館やアクシス玄海の閉館に伴い、保育園の発表会などを新たな顧客として獲得できたので、引き続きホール利用の新たな顧客を獲得していく。さらにイベントホールでの企業主催展示会や展示室（ギャラリー）の非営利・営利団体の貸出時期統一化するなど、営利団体の利用を促すことで利用料金収入アップを図る。

また、「夜間有料学習室」の増室や「スタジオ当日受付の半額割引」の継続など利用者に定着したサービスを提供していくことやイベントホールでのマーチング練習の利用案内をするために大会パンフレットへ広告掲載を行ない、会議室とホールを合わせた施設稼働率アップを図る。

すでにお客様の支持をいただいているインフォメーション・貸館職員の接遇レベルをさらに向上させるために資格取得を目標とした研修や新人職員を積極的に接遇研修等に参加させていく。

また、利用者に便利なインターネットや携帯端末などに対応できるような施設予約・チケット予約システムを新たに導入する検討を始め平成 25 年度当初から稼働できるようにする。

さらに、北・南ゾーンの第二期指定管理者として、お客様の視点・立場に立った施設運営を図るため、4 年毎に実施している全市対象の市民アンケートを実施して、施設全体に対しての利用実態と満足度の把握と分析を行い、次期指定管理に向けた魅力ある施設サービスのアイデアに生かしていきたい。

当然これからも設備・備品の定期的な更新や需要が多い備品の増台をしていくなど利用環境を向上させ、施設使用者だけでなく来場された全員の利用者満足度アップを図る。

常に利用者の声を大事にした施設運営とサービス提案を継続させていき、「利用料金収入アップ」、「施設稼働率アップ」、「利用者満足度アップ」に取り組むことで施設利用者数の増加へつなげていく。

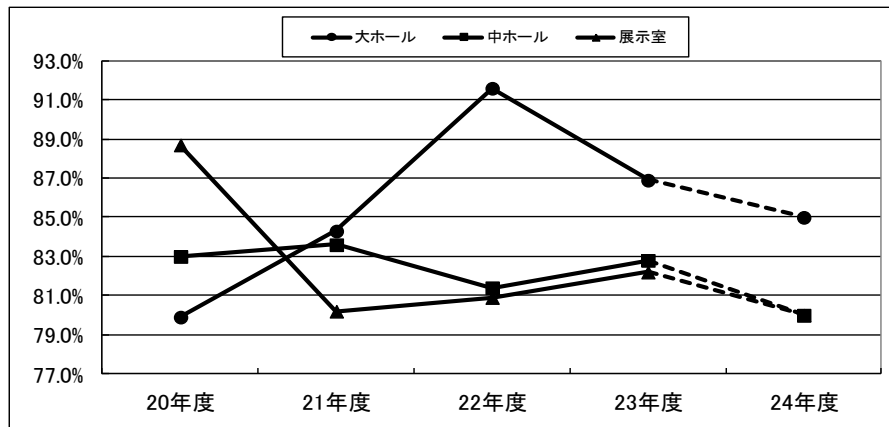
【 数値目標 】

●3 大施設平均利用率 81.7% 【大ホール 85%、中ホール 80%、展示室 80%】

3 大施設利用率の推移

※23 年度は見込値、24 年度は目標値

	20年度	21年度	22年度	23年度	24年度
3大施設利用率	83.9%	82.7%	84.6%	84.0%	81.7%
大ホール	79.9%	84.3%	91.6%	86.9%	85.0%
中ホール	83.0%	83.6%	81.4%	82.8%	80.0%
展示室	88.7%	80.2%	80.9%	82.2%	80.0%



※利用率は、貸出可能日数のうち利用された日数の割合

●本館等利用者数 550,000 人 / 本館等利用料金 61,000,000 円

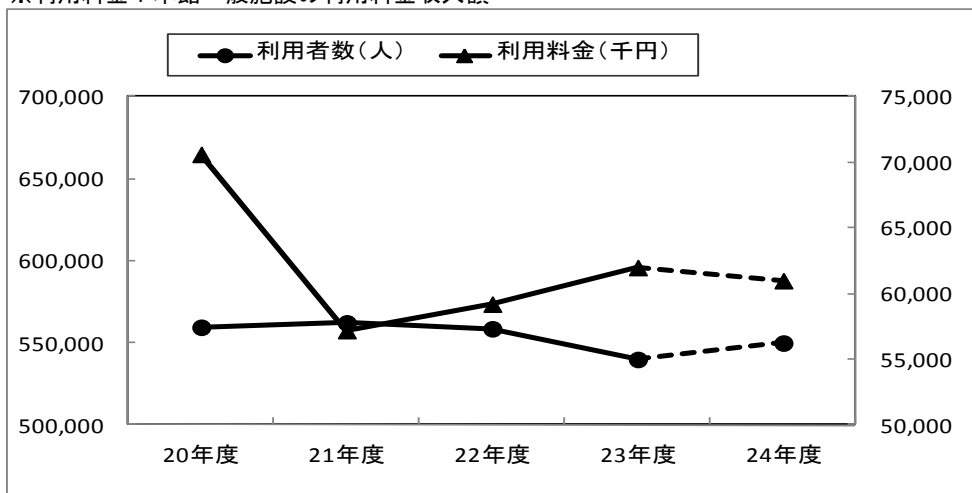
本館利用者数・利用料金の推移

※23 年度は見込値、24 年度は目標値

	20 年度	21 年度	22 年度	23 年度	24 年度
利用者数(人)	559,610	562,311	558,694	540,000	550,000
対前年比	97.8%	100.5%	99.4%	96.7%	101.9%
利用料金(千円)	70,618	57,196	59,215	62,000	61,000
対前年比	92.5%	81.0%	103.5%	104.7%	98.4%

※利用者数：本館一般施設、図書館の利用者と視察者の合計人数

※利用料金：本館一般施設の利用料金収入額



③ プラネタリウム運営

特定非営利活動法人エム・ワイ・ピーとの「協働」運営の7年目となる。基本的な事業の方向性はこれまでどおり「地域に愛されるプラネタリウム」を目指すことを第一に事業を展開する。さらに、社会的ニーズや役割に応じていくことを目標として掲げる。

昨年度はリニューアル効果により、過去最高の入場者数（推定 37,500 人）を記録することができた。今年度は「リニューアル記念」を、おとな向けの「リラクセーションプログラム」に変更する。リニューアルにより改善された音響とプラネタリウムの魅力である星空と宇宙の演出を活かしたプログラムの展開を行っていく。

天文現象として今年度は5月21日に日本で金環日食が見られる。「おとな向け」のプログラムで「日食」をテーマにしたものを実施し、安全に日食を見るための方法を広め、天文普及を担う施設の役割を果たしていく。さらに「おとな向け」プログラムでは、ほかに季節に応じた3つのテーマを取り上げる。

「こども向け」プログラムは、今夜の星空のお絵かきやショートストーリー、クイズなど、季節や見られる星空に合わせて内容を変更していく。ショートストーリーは、4種類の話を用意し、いつ来ても違う内容で楽しめる仕掛けを作り、リピーターの確保に繋げていく。

昨年度はリニューアルと学習指導要領の改訂に伴い、小学4年生用学習用のプログラムをリメイクした。さらに小学3年生と6年生・中学3年生用の準備を整えたことで小中学校の天文に関する授業を受け入れる体制ができた。今年度は、市内および周辺地域の小中学校に対して案内文を送付する。また、宗像市や市教育委員会と積極的な連携を図り、学習プログラムの認知度を高め、教育の分野での役割を果たしていく。

毎回好評である「サイエンスカフェ」は、年2回実施し、「サイエンスカフェ」の楽しさ、面白さを積極的に伝え、参加者をさらに増やしていく。

ほしぞらスタッフ（ボランティア）活動については今後も継続していく。さらにボランティア活動内容の充実をはかり、ボランティアスタッフ、イベント参加者双方にとって有意義なものとなるようにしていく。

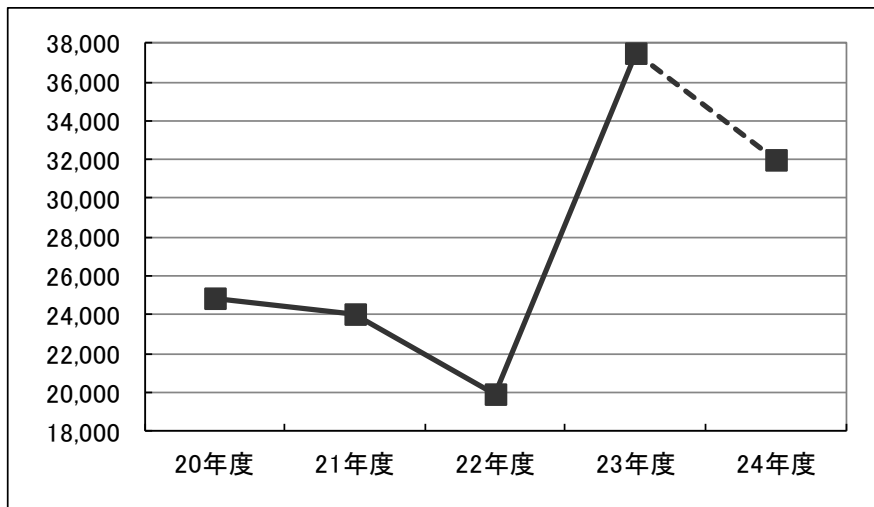
【 数値目標 】 ●入場者数 【32,000 人】

プラネタリウム入場者数の推移

※23 年度は見込値、24 年度は目標値

	20年度	21年度	22年度	23年度	24年度
入場者数	24,868	24,051	19,925	37,500	32,000
対前年比	91.3%	96.7%	82.8%	188.2%	85.3%
対前年人数	△ 2,364	△ 817	△ 4,126	17,575	△ 5,500

※平成 22 年度は改修工事による営業休止のため、実働 8 ヶ月での入場者見込数



④ アクアドーム運営、健康レクリエーション事業

基本的な方向性は、次の 3 点である。

- ①健康づくり運動等の実践者の総合的健康の維持向上を目指す。
- ②地域に密着した健康づくり運動等が行える施設運営を行う。
- ③お客様の要望に対応し継続可能な生涯スポーツ等へ誘う。

●アクアドーム

健康づくり事業の中心的なプログラムであるウエルネスクラブは、平成 22 年 9 月より導入した「40 歳未満の会員種別」が好評であり、平成 23 年度の「40 歳未満の会員種別」の入会者が 35 名（24 年 1 月現在）となった。ウエルネスクラブ全体においても 278 名（23 年 3 月会員数 239 名）と大幅増となった。

平成 24 年度は、ジムのみを利用されている定期利用者に対して、ジム年間使用料金システムを企画・実施するなど総合的健康の維持向上を目指す施設の役割を果たし、地域の健康づくりの拠点としての存在感をより高めていく。

サービス向上施策として、新たに以下のことを実施する。

- ①祝日スタジオレッスン
- ②夏季水中運動教室（7 月～8 月、スイミングスクール休止期間）
- ③平日ショートプログラムとしてストレッチを実施。

（対象：ウエルネスクラブ、ジム利用者）

地域に密着した健康づくり運動として、近年増加しているウォーキング愛好家を対象として宗像市健康づくり課作成のウォーキングマップを活用した参加無料のイベントを実施する。

また、昨年好評であったグラウンドゴルフ大会の実施や休日を利用した「アクアドーム施設」体験会の実施などにより、お客様を継続可能な生涯スポーツへ誘う。

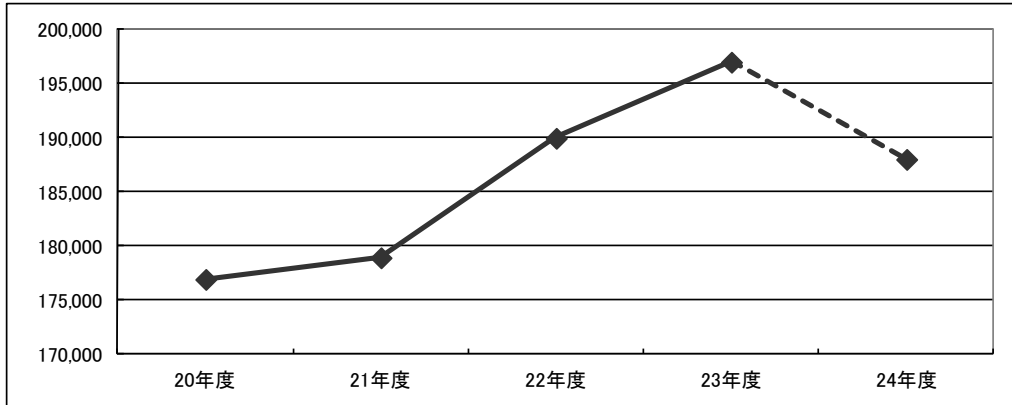
上記の取り組みに加え、市内に新たな施設がオープンすることもあり、平成 24 年度は広報活動を積極的に行っていく。主なプログラムであるウエルネスクラブ・スイミングスクールや新たに取り組むサービス向上施策を、広報紙や新聞折り込みチラシ（年 4 回計画）を通して周知を図っていく。

【 数値目標 】 ●入場者数 【188,000 人】

アクアドーム入場者数の推移

※23 年度は見込値、24 年度は目標値

	20年度	21年度	22年度	23年度	24年度
入場者数	176,890	178,892	189,953	197,000	188,000
対前年比	114.0%	101.1%	106.2%	103.7%	95.4%



●パットゴルフ

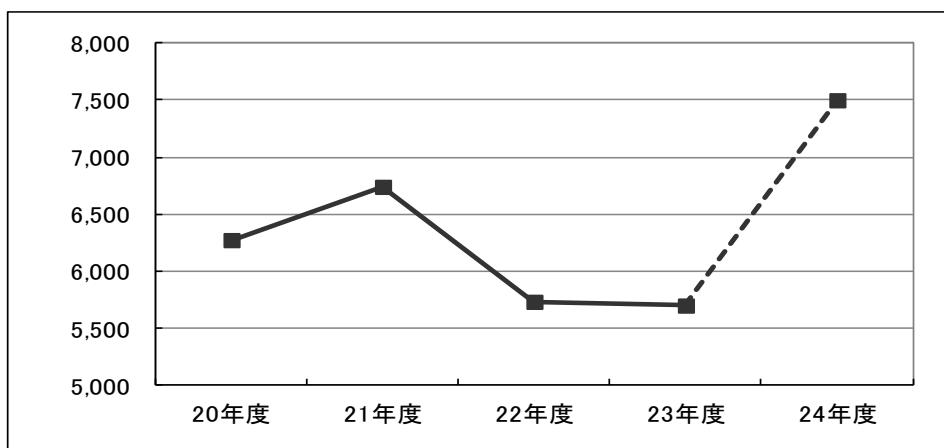
入場者数の減少傾向が続いていることから、平成 23 年度は、10 月より「シニアデー」や「親子ペアデー」など新規施策を導入した。平成 24 年度は、パットゴルフオープン 20 周年のため、「コミュニティセンター対抗パットゴルフ大会」や「シニア大会」などを実施することで、入場者数 7,500 人を目指す。

【 数値目標 】 ●入場者数 【7,500 人】

パットゴルフ場利用者数の推移

※23 年度は見込値、24 年度は目標値

	20年度	21年度	22年度	23年度	24年度
入場者数	6,274	6,741	5,733	5,700	7,500
対前年比	94.7%	107.4%	85.0%	99.4%	131.6%
対前年人数	△ 353	467	△ 1,008	△ 33	1,800



●ゆ～ゆ～プール

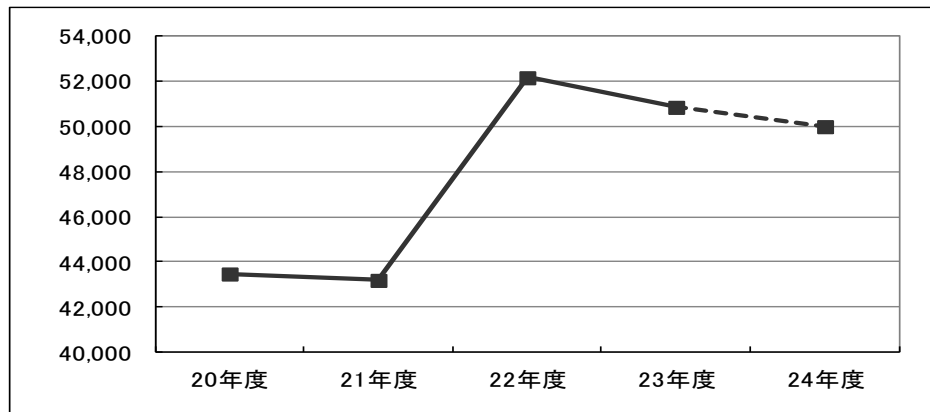
大規模な施設改修に先立ち、スライダープールの改修を行った。また、ファミリー層をターゲットとしたサービスを実施していく。

【 数値目標 】 ●入場者数【50,000人】

ゆ～ゆ～プール利用者数の推移

※23年度は見込値、24年度は目標値

	20年度	21年度	22年度	23年度	24年度
入場者数	43,476	43,194	52,165	50,855	50,000
対前年比	99.4%	99.4%	120.8%	97.5%	98.3%
対前年人数	△ 269	△ 282	8,971	△ 1,310	△ 855



●テニスコート

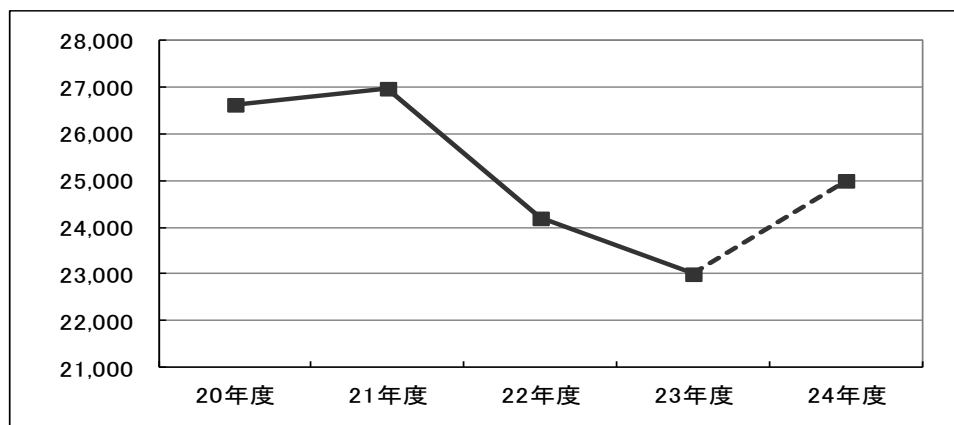
新サービスの導入検討や積極的な広報実施により、入場者数の減少傾向の歯止めとする。

【 数値目標 】 ●入場者数【25,000人】

テニスコート利用者数の推移

※23年度は見込値、24年度は目標値

	20年度	21年度	22年度	23年度	24年度
入場者数	26,628	26,973	24,196	23,000	25,000
対前年比	96.8%	101.3%	89.7%	95.1%	108.7%
対前年人数	△ 889	345	△ 2,777	△ 1,196	2,000



(3) 運営全般

① 施設管理（ハード）・安全管理

宗像市が実施している保全工事について、平成 23 年度に改修したスライダープールに続き、平成 24 年度にはゆ～ゆ～プールの機械・電気設備の更新、本館地下の冷温水器設備の改修などを予定している。

平成 15 年度からスタートした第一期保全改修事業も今年度が最終年度となるが、当初、計画に組みまれていなかった施設の劣化や老朽化が進行しており、第二期を考えた保全計画の準備に取り掛からなくてはならない。

また、公社で行う修繕工事は館内外とも常に、情報網を張りお客様に快適な空間を提供するべく迅速な対応を行う。

緑豊かな公園内の植栽管理は、公園内が明るく、きれいになったと利用者からも好評を得ており、今年度も更なるレベルアップを目指して整備を行う。

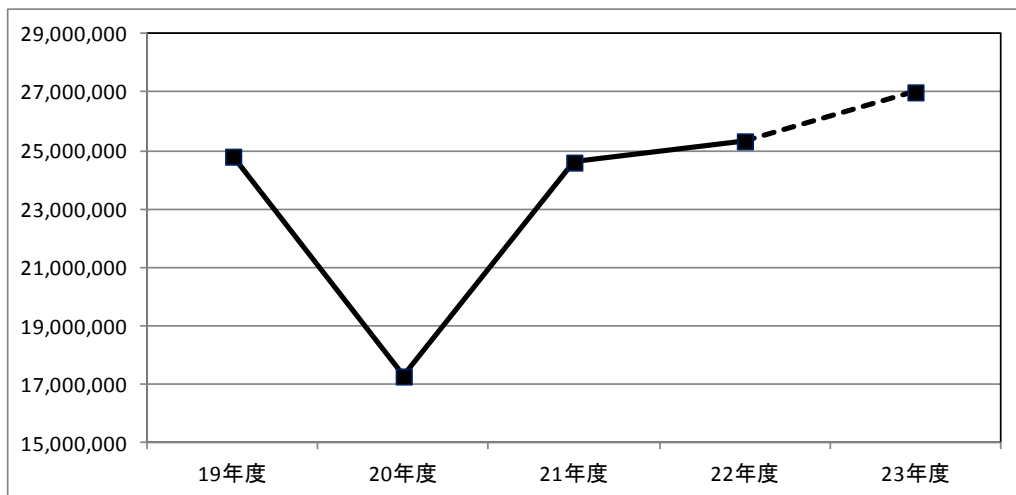
安全管理としては防災設備の法定点検や年 2 回の防災訓練を行い、公社職員はもとより関連する機関や委託会社の職員全員で、避難誘導・消火訓練に励み、非常事態に対応できるものとする。

また、公社職員全員で行う安全総点検は、日頃、見慣れている施設や設備をもう一度チェックすることで、安全に対する意識高揚につながるものと継続して行く。

【 修繕状況 】

※23 年度は見込値

	19年度	20年度	21年度	22年度	23年度
修繕発生件数(件)	131	113	104	116	130
対前年度比		80.9%	86.3%	92.0%	111.5%
修繕費(円)	24,796,827	17,266,555	24,594,145	25,322,627	27,000,000
対前年度比		78.6%	69.6%	142.4%	103.0%



② 組織・運営体制

平成 24 年度は第二期指定管理者として 3 年目である。過去 6 年間の指定管理者としての経験、ノウハウの蓄積は公社としての自信であり、新たに加わった市の文化行政に関する業務も市民ギャラリーの運営だけでなく、これからは文化の拠点に相応しい組織としてスタッフ全員の共通認識を持つことは、言うまでもない。また、市との連携をこれまで以上に行い日々の業務に取り組んで行く。

そのために、現在運用している「人事管理システム」¹及び「人事評価制度」²の効果的活用や職員研修を充実させ、公社職員全員の能力を向上させるとともに、組織力の強化を図る。このため、職員が安心して働けるように身分を安定したものとなるように、法に基づいた労使協定を結ぶことに努めていく。

平成 23 年度に市職員と公社職員で構成する公益法人化プロジェクト推進委員会を立ち上げて、先進地の情報収集や様々な研修会に参加して申請書類の完成を目指している。今年度中に公益財団法人認定の取得に向け、評議員会・理事会などで議論を重ね、また、公社の顧問公認会計士のアドバイスを受け、最大限の努力で平成 24 年度中の認定が得られるよう公社職員一丸となって業務に取り組む。

【 人員体制の推移 】

	20年度 (21年3月末)	21年度 (22年3月末)	22年度 (23年3月末)	23年度 (24年1月現在)	24年度 (24年4月予定)
中核職員	6	6	6	6	6
(うち市派遣)	(3)	(3)	(2)	(2)	(2)
専任職員	2	3	3	3	3
嘱託職員	9	7	9	8	9
臨時職員	18	19	17	20	19
合計	35	35	35	37	37
特記事項	第1期指定管理 (3年目) 人事評価制度 試行開始	第1期指定管理 (4年目) ※最終年度 人事評価制度 本施行開始	第2期指定管理 (1年目) ※初年度	第2期指定管理 (2年目)	第2期指定管理 (3年目)

¹ 公社職員を中心とする組織を目指し、平成 19 年 3 月策定。職位、待遇等について規定。

² 「宗像ユリックス人事評価制度」。平成 20 年度を試行期間とし、平成 21 年度より運用開始。

③ 財政運営

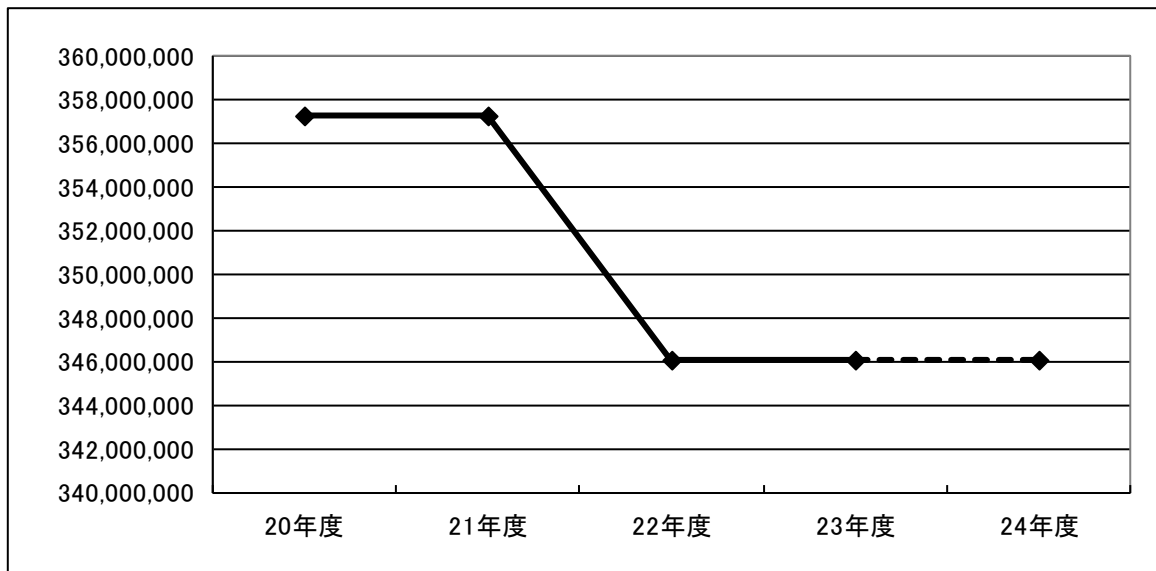
第二期指定管理の 3 年目となる平成 24 年度は、「指定管理者として安定的な管理運営を遂行するため、中長期の財政状況を展望し、できる限り経常経費の圧縮、削減を進める」という従来の運営指針を引き続き堅持する。また、現在運用中の「新・公益法人会計方式」による予算科目・部門別及び宗像ユリックス全般の管理運営状況についてのデータ蓄積を活かした、公社ならではのフレキシブルな財政運営を行っている。そのための「オフィシャル・パートナー制度」³や昨年度から導入した、「オフィシャル・サポーター制度」を活用し、ユリックス倶楽部会員及び施設利用料の増加、各種販売事業による手数料収入増加等の独自財源の確保、各業務委託料の精査等、財務体質の改善を図っていく。

公益法人改革については、平成 24 年度中の公益法人認定を目指し、新しい公益法人会計への移行も併せて実施して行く。

【 管理運営コストの推移 】

予算ベース	20年度	21年度	22年度	23年度	24年度
管理運営コスト	357,308,000	357,308,000	346,083,000	346,083,000	346,083,000
対前年削減額	0	0	11,225,000	0	0
対前年比	100.00%	100.00%	96.86%	100.00%	100.00%

※22年度より指定管理業務が 2 つに分割（北・南）となったが、管理運営コストは合計額を表記



³ 宗像地域の文化振興を目的とした支援制度。パートナー料は宗像ユリックスの文化事業（特に参加型・育成型事業）へ活用。平成 19 年 1 月 26 日、宗像医師会と協定を締結し、平成 23 年についても更新。